



【第三次整備 南棟が完成しました。2～3頁】

目次

- 南棟が完成 2～3
- ねっとわーく
飯田市立上村診療所 4
スムーズな受診は「かかりつけ医」と上手に
付き合うことから始まります 5
- もう一度看護師の資格を活かして
働きませんか？ 4～5
- 糖尿病治療の地域連携を考える 6
- 検査の窓 7
アレルギー性鼻炎(花粉症)について
- 職場紹介 7
放射線技術科の紹介 その②(R1室)
- がんサロン結(ゆい)に参加してみませんか? 7
- 新任医師の紹介 8

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と、職員が誇りややりがいの持てる職場づくりを行います
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

～救命救急センターと内視



第3次整備南棟完成にあたって



院長 金子源吾

当院は飯田下伊那医療圏の中核病院として、地域医療を守るために大きな役割と責任を担っています。さらに高度で良質な医療が提供できるように第3次整備事業と称して、主に救急、周産期およびがん医療に関連した施設の増築・改修工事を行っています。

このうち4月には南棟が完成し、15日から運用を開始しました。1階には新しい救命救急センターを構成する救急外来、病室、ICUを集約し、診療機能の充実を図りました。また、内視鏡室も移転・拡充しました。2階は血管撮影室2室と医局、当直室および職員図書室ができました。そして、3階には主に講義室と事務室が入り、講義室は普段は講演会や大きな会議の会場として用いられますが、大規模災害時には災害拠点病院として機能できるように、災害対策本部および災害派遣医療チーム（DMAT）の滞在拠点となるスペースとしての使用を想定しています。

今後は既存棟の改修工事を行いません。周産期センターや地域がん診療連携拠点病院にふさわしい施設整備を進めるほかに患者アメニティーの向上などにも配慮した食堂、売店などを整備することになります。これを機にさらに質の高い医療サービスを提供していきたいと考えています。



竣工式 院長あいさつ



竣工式 施設内視察

南棟が完成

鏡室、血管撮影室を配置～



第3次整備事業により整備された南棟の竣工式を4月8日に行いました。

建物は3階建て、延床面積は約4,800㎡、1階には救命救急センターを配置しました。

これまで分散していた救急外来と救急病床、救急ICUを集約化して、より機能的な救急医療が提供できるようになりました。ドクターカーの試行運用も進めながら、救急医療の充実を図っていきます。

また、同じ1階に内視鏡室、2階に血管撮影室を配置しました。内視鏡室には多目的X線テレビを増設し、血管撮影室には県内初となる低被ばく最新X線診断装置を導入しました。

検査機器を増設したことにより、緊急時にも円滑な対応が行えるようになります。

3階の講義室は、各種の研修会や講習会などに使用することはもちろんですが、大規模災害が発生した際には、ここに市立病院の災害対策本部とDMAT隊の活動拠点本部などを設置することになります。

当院は災害拠点病院の指定を受けており、いざという時の備えに万全を期していきます。

このほか、職員の増加に対応するため、医局や事務室等を整備し、この南棟は4月15日から運用を開始しています。

今後も引き続き、院内の改修工事が行われます。周産期部門の拡充やがん診療部門の充実についても、本年度中に完成した部門から順次運用していきます。

現在、食堂が改修のため、営業を停止しておりますが、5月7日にはプレオープンの予定です。ご迷惑をおかけしておりますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。



循環器系X線診断装置



救命救急センター入口



多目的X線テレビ撮影装置



救命救急センター内部



飯田市立上村診療所

(飯田市上村)



南アルプスのふもと(遠山郷)にて

飯田市立上村診療所(内科) 鷺山久之

(旧)上村と(旧)南信濃村は、古くから「遠山郷」と呼ばれており、H17年に飯田市に合併となりました。ほとんど山間地で、特に「下栗地区」は、標高1000mを越え、「日本のチロル」と呼ばれております。

(旧)上村へき地診療所を、守って来られた「小林四郎先生」が、H16年に急逝されてしまい、その後の自治医大からの派遣も厳しい状況で、急遽「長野県庁 医師確保対策室(長野県ドクターバンク)」より、上村への赴任要請があり、H18年から勤務しております。(高森町出身・富山大学 昭和62年卒/呼吸器内科) 病院勤務時は、1

CUでの重症患者の呼吸管理や癌化学療法といった仕事が主でしたので、ここ診療所では、看護師の熊谷さん・医療事務の木下さん(市職)の2人(共に地元のお母さんです)に助けをもらいながら、日々の診療をなんとか行っております。

飯田市立病院の先生方には、患者の紹介・急患の受け入れ等、大変御世話になっており、医師不足の中、本当にありがとうございます。特に、救急搬送では、1時間以上かかる事も多く、申し訳なく思っております。「検査科」の皆さんには、その日の内に「検

査結果のFAX」を送って頂き、本当に助かっております。今後共、宜しく願いいたします。



鷺山先生(中央)とスタッフの皆様

所在地 〒399-1403 飯田市上村844-2

☎0260-36-2050

診療科目 内科

診療時間 月～金 8:30～17:15

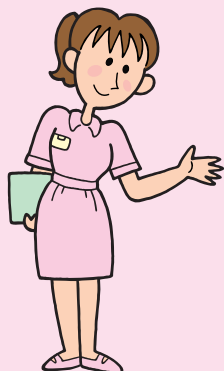
休診日 土曜日 日曜日 祝日

往診 可

駐車場 あり



もう一度看護師の資格を活かして働きませんか？



看護師免許を持ちながら看護業務に就いていない方を「潜在看護師」と呼んでいます。65歳以下の潜在看護師は全国で55万人いると言われており、看護師不足は高齢化、高度化する医療現場では大きな問題になっています。飯田市立病院では長野県看護協会が長野県健康福祉部から受託している再就職支援研修会を平成19年から、年1回開催して来ました。平成23年からは飯田下伊那8病院共同開催という形で地域全体の医療機関の取り組みとしています。

共同開催にしてから参加者数は毎回10名を超え、昨年飯田病院を会場として開催した研修には18名の方が参加されました。研修会では、実際に再就職した看護師が講師

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

5回シリーズ ー第2回ー

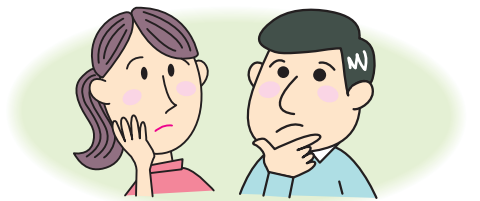
スムーズな受診は「かかりつけ医」と上手に付き合うことから始まります



～かかりつけ医を選ぶには?～

《受診前の選択のポイント》

新たにかかりつけ医を見つけるために、事前に患者側が出来る準備には、どのようなものがあるのでしょうか。

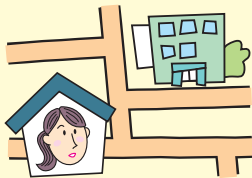


◎かかりつけ医の探し方

かかりつけ医を選ぶ基準は人によって違います。以下を参考に、なるべく日ごろから多くの情報を集めて探すようにしましょう。

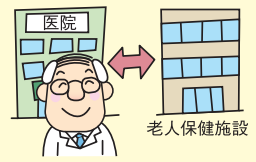
■ 近隣の医師

自宅や職場の近くにあるお医者さんであれば通院しやすく、生活習慣病の治療や日々の生活改善などの健康相談にも便利。



■ 家庭環境に合う医師

高齢者がいる家庭であれば、地域の老人保健施設や老人ホームといった連携機関などとのつながりが深い医師が適任。



■ 小規模な開業医

病院と比較して待ち時間が短く、受診手続きも簡単。曜日などによって担当医が代わることもほとんどありません。



■ 公的機関の紹介

住んでいる市町村や保健所、医師会などの相談窓口にお問い合わせると、要望に応じた医療機関をいくつか紹介してもらえる。

■ 迷ったら内科医へ

初期診療の段階で、色々な病気を総合的に診断できる内科医が理想。必要に応じて診療科の振り分けもしてくれる。



■ 独自に情報収集

地域の情報誌や広報誌、電話帳やインターネットなどを活用して、自分自身で情報を収集して候補を絞る。



～潜在看護師の再就職に向けての取り組み～

として参加し、再就職して変化した自らの考え方、家族の協力の様子などを語り、生き活きとした姿を見せたいです。南信地区の医療・福祉現場のマンパワー確保を図り、地域の皆様に安全で安心な医療を受けていただくため、この研修会を近隣施設と共に今年度も実施する予定です。

看護部 再就職支援研修担当 園田直美



糖尿病治療の 地域連携を考える

—第3回—

地域ぐるみの糖尿病対策

—地域糖尿病療養指導士(LCDE)育成会の役割—

シリーズ第2回では、糖尿病治療にかかる地域連携パスについての内容でした。第3回は、地域糖尿病療養指導士(LCDE)についてお話しします。



栄養価計算の実践



専門医の講義

●「日本糖尿病療養指導士CDEJ」と「地域糖尿病療養指導士LCDE」

日本糖尿病療養指導士とは、社団法人日本糖尿病協会が認定する「日本糖尿病療養指導士CDEJ」(以下、「CDEJ」という)のことで、CDEJの有資格者は、全国各地の医療関係施設で糖尿病患者の療養指導や予防のための様々な取り組みを展開しています。一方、地域糖尿病療養指導士LCDE(以下、「LCDE」という)は、CDEJの制度を基に、各地の医療圏単位で独自に認定した糖尿病療養指導士のことで、これは、糖尿病療養指導への取り組みを地域単位でさらに活性化し、より地域に密着した療養指導を提供することを目的に始まった取り組みです。地域ごとに育成会を組織し、独自の認定制度と教育プログラムを設けています。

糖尿病という国民的疾患を減少させ、また予防するために、医師だけでなく様々な職種が連携・協力して、治療や予防に取り組んでいます。



グループワークの発表風景

●長野県内でのLCDE取り組み状況は？

長野県内で、いち早くLCDE育成会を立ち上げたのは、平成20年4月発足の「東北信地域糖尿病療養指導士育成会」です。その2年後となる平成22年4月には、飯田下伊那地域が、県内2団体目となる「飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成会」を立ち上げました。現在、長野県内ではこの2団体がそれぞれの地域で精力的に活動しています。今後は、県内各地域でこうした取り組みが活発化していくことでしょう。

●育成会では、具体的にどのような活動を行っていますか

参加者は、糖尿病医療に従事する看護師、薬剤師、保健師、管理栄養士、理学療法士など、多職種に及びます。また、地域の糖尿病専門医にも、会の運営のためにご協力いただいております。

会では、糖尿病の療養支援に必要な専門的知識や技術を幅広く習得するために、より専門性の高い内容の研修会(年間5回)を開催し、その後、認定試験が行われます。認定試験合格者は、「飯田下伊那地域糖尿病療養指導士」として認定されます。認定後は、勤務する施設で「血糖コントロールの意義」、「食事療法」、「運動療法」、「薬物療法」、「合併症」、「生活習慣」について、患者さんやその家族への、より積極的な支援を行うことができます。また、医師の診察と治療だけでは補完されない部分について、様々な療養指導・支援、予防のための情報提供を行います。認定後も、習得した知識と技能が低下しないように、年1回のスキルアップ研修会への参加が義務付けられており、長期的なフォロー体制も充実しています。

●LCDEの活動に参加するには

飯田下伊那地域糖尿病療養指導士にご興味のある方は、ぜひ育成会ホームページをご覧ください。認定試験要項など資料のご案内をしております。また、活動実績などをご覧ください。

飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成会ホームページ <http://www.iidashimoina-cde.com/>

問い合わせ先 **飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成会 事務局**

〒395-8502 飯田市八幡町438番地 飯田市立病院 地域医療総合連携室

TEL 0265-21-1255 / FAX 0265-21-1229 (直通)

検査の窓

その27

アレルギー性鼻炎（花粉症）について

アレルギー性鼻炎には、花粉症と言われている春のスギ、初夏のイネ科、真夏から秋口のキク科の花粉が原因となる季節性のものとハウスダストなどが原因となる通年性のものがあります。例えば体内に花粉（抗原）が侵入すると、普通は無害ですが、免疫を担当する細胞がストレスなどの要因で排除しようとする、排除のための抗体（特異的IgE抗体）を作ります。この抗体はマスト細胞という細胞にくっついて存在するようになり、アレルギーを起こす準備が整った状態になります。（図1.）再び、外から侵入してきた花粉（抗原）が、この特異的IgE抗体にくっつくことにより、マスト細胞が破裂して、多くのヒスタミンなどを放出します。（図2.）

これが鼻や眼の粘膜表面の神経を刺激し、くしゃみや鼻汁の分泌、鼻づまりの症状や眼のかゆみ、涙の分泌が増す等のような症状を発現します。原因となる物質を特定して、マスクや眼鏡で花粉を少しでも体内に入れないようにする努力が必要です。

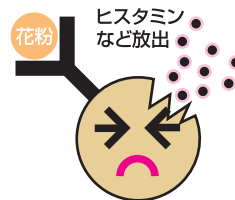
アレルギー性鼻炎検査は

- その症状がアレルギー反応であることを証明するもの
鼻汁好酸球検査、総IgEの定量（血液）
- アレルギーの原因物質（アレルゲン）を特定するもの
特異的IgE測定（血液）

図1.



図2.



シリーズ ● 職場紹介 ● その36

【放射線技術科の紹介 その②（R I室）】

当院は、ガンマカメラ1台、PET-CT（県内に5施設、南信では当院のみ）1台がありR I検査、PET検査を行っています。いずれの検査も微量の放射線を出す放射性同位元素（R I）を含んだ薬を注射して、その薬から発する放射線を体外から撮影し、薬の分布状況を画像にして調べる検査です。

R I検査は主に脳の血流状

態を調べる脳血流シンチ、心臓の筋肉の状態を調べる心筋シンチ、全身の骨の異常を調べる骨シンチなどが行われています。

PET検査はがん細胞が正常細胞に比べ多量のぶどう糖を必要とする性質を利用して、全身のがんを発見する目的で行われ、1回の検査でほぼ全身を調べることができます。

2011年度にはR I検査で年間810件ほど、PET検査で年間520件ほど行われました。



がんサロン結(ゆい)に参加してみませんか

当サロンは、患者さんやご家族が抱えている不安や悩みを相談したり、経験などを気軽に語り合える場です。2時間のうち、前半1時間はミニ講座や遊びの時間、後半1時間はフリートークとなっています。

事前申し込みや参加費は無料ですので、お気軽にご参加ください。

◆日 時：毎月 第1水曜日14時～16時 *5月と1月はお休みです。

◆場 所：2階 人間ドック休憩室

今後の予定

- 6月5日(水) 痛みについて
- 7月3日(水) 七夕飾りを作ります
- 8月7日(水) 栄養について・医療費について





新任医師の紹介 平成25年4月1日



産婦人科
鈴木 昭久
(すずき あきひさ)
平成9年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



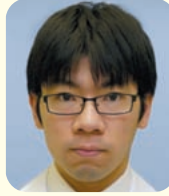
形成外科
矢野 志春
(やの しはる)
平成11年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



脳血管内治療科
市川 陽三
(いちかわ ようぞう)
平成14年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



放射線診断科
小松 舞
(こまつ まい)
平成20年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
諏訪赤十字病院



外科
大上 康広
(おおうえ やすひろ)
平成21年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



産婦人科
志村 隆行
(しむら たかゆき)
平成22年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



耳鼻いんこう科
岡村 光司
(おかむら こうじ)
平成22年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



小児科
橋本 美緒
(はしもと みお)
平成22年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



消化器内科
日原 優
(ひはら ゆう)
平成22年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



循環器内科
平林 正男
(ひらばやし まさお)
平成22年卒業
平成25年4月1日着任
前勤務病院
信州大学



研修医
鈴木 祐介
(すずき ゆうすけ)
平成24年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
川田 伊織
(かわた いおり)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
福澤 拓馬
(ふくざわ たくま)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
河野 真奈花
(かわの まなか)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
滝 美波
(たき みなみ)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
三村 哲彦
(みむら てつひこ)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
青沼 宇倫
(あおぬま たかのり)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医
細田 清孝
(ほそだ きよたか)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医(歯科)
篠原 潤
(しのはら じゅん)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医(歯科)
篠原 潤
(しのはら じゅん)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任



研修医(歯科)
篠原 潤
(しのはら じゅん)
平成25年卒業
平成25年4月1日着任

あ と が き

東日本大震災から2年目の春。忘れてはならないはずの「あの記憶」は時間とともに薄れはじめていきます。しかし、私たち医療従事者は、震災から学んだことをいつまでも教訓に、地域住民の命と健康を守るため、今後発生が予想される東南海地震などを意識した医療体制の整備や取り組みを、地域一丸となって進めていかねばならないと改めて感じました。

編集委員：丸山晃治